

2021年7月23, 24日 権現岳～赤岳～阿弥陀岳

メンバー：岩田、濱（会員外）

舟山十字路→西岳→青年小屋→権現岳→赤岳（頂上は踏まず）→阿弥陀岳→舟山十字路の周回を、青年小屋テント泊で実施しました。目的は、同行者が八ヶ岳の稜線でまだ歩いていない権現岳～赤岳間を踏破することです。

7月23日

梅雨明け以降、八ヶ岳は常に午後は雷雨となっています。この日も同様に午後は雷雨になることを想定して、早めに歩行を終了する計画としました。

歩行距離が短いので、遅い出発としましたが、舟山十字路の駐車場は予想外に空いており、余裕でとめられました。

青年小屋までは、ほぼ樹林帯で日差しがあるものの、暑くなく快適に歩けました。

青年小屋到着、豪雨に耐えられるよう、テントサイトの選択を慎重に行いました。

その甲斐があり、12時過ぎから激しい雷雨となりましたが、テントの中で快適に過ごすことができました。（雷の間は小屋に避難）

7月24日

雷雨の後、深夜には雲が晴れると推定し、2時起きで、星の写真を撮る。満月に近い月が、西に傾き、編笠山の中腹のテラスから見える権現岳を明るく照らしている状況を、冬の星座と共に写真に収めました。

3時から朝食、撤収を行い、4時に出発。（午後の天候悪化対策）この日は、落石の危険のある行程につき、ヘルメットを装着する。

権現岳手前で、日の出。森林限界以上の稜線では、多くの種類の高山植物がみられました。名前はわからないものも多いのですが、写真に収めつつ進む。

濡れたテント泊装備で重いザックのためか、足の疲労が激しい。赤岳の山頂は踏まず、真教寺尾根分岐手前から文三郎道へのトラバースに行く。

最後は、中岳のコルから阿弥陀岳への急登を落石を起こさないように細心の注意をしながらゆっくりと登る。

阿弥陀岳の山頂でゆっくりと休憩し、後は先週ピストンした御小屋尾根を下る。

舟山十字路駐車場では、先週は群れていたアブがあまりおらず、助かった。（先週はアブが車の中に多数入り込み、大変であった。）

車へ入り込んだ後、雨が降り始める。早出の効果があり降雨に会わず助かった。

【コースタイム】

7月23日

舟山十字路6:30→西岳9:30→青年小屋11:00

7月24日

青年小屋4:00→権現岳5:30→キレット小屋7:00真教寺尾根分岐→9:00→中岳9:40阿弥陀岳10:30→御小屋山12:40→舟山十字路13:40

